

平成24年度日本小児外科学会
第3回定例理事会議事録

日 時：平成24年9月26日（水） 11：00～16：00

会 場：日本外科学会 会議室

出席者：田口智章（理事長）、仁尾正記（副理事長）、岩中 督（理事・会長）濱田吉則（理事・副会長）、菰澤融司、前田貢作、北川博昭、窪田正幸、松藤 凡（以上理事）、窪田昭男、土岐 彰（以上監事）、小室広昭（庶務委員長）、菱木知郎（庶務副委員長）、吉澤穰治（財務会計委員長）、渡井 有（財務会計副委員長）家入里志、杉山正彦（以上庶務委員）、堀口裕輔（事務局）

欠席者：橋本 俊（監事）

議 事：

1. 第3回定例理事会の議事録署名人は、菰澤融司 理事、北川博昭 理事とした。

2. 平成24年度第2回定例理事会議事録につき、全会一致にて承認された。

3. 報告事項

田口理事長より以下の報告があり、了承された。

1) 理事長報告（田口理事長）

- (1) 日本リハビリテーション医学会からの通信文「理事長副理事長退任と就任挨拶」を受領した。
- (2) 日本皮膚科学会からの通信文「理事長退任と就任挨拶」を受領した。
- (3) 厚生労働省医薬食品局からの冊子「医薬品医療機器等安全性情報 No. 291～293」を受領した。
- (4) 日本専門医制評価・認定機構からの冊子「日本専門医制評価・認定機構ニュース No. 7」を受領した。
- (5) 難病のこども支援ネットワークからの冊子「がんばれ！VOL. 133」を受領した。
- (6) 日本医療機能評価機構からの冊子「ニューズレター2012-No.2～3」を受領した。
- (7) 日本外科学会からの寄贈本「SURGERY TODAY Vol. 42-No. 7～9」を受領した。
- (8) 東京医科歯科大学難治疾患研究所からの寄贈本「Annual Report 2012 日本語版/英語版」を受領した。
- (9) 日本製薬工業協会からの冊子「製薬協ニューズレター2012-No. 150～151」を受領した。
- (10) 外科関連学会協議会からの通信文「患者プライバシー保護に関する指針 共同名義団体の追加」を受領した。
- (11) 外科系学会社会保険委員会連合からの通信文「分担金値上げの承認の案内」を受領した。
- (12) 日本がん治療認定医機構からの通信文「理事長退任と就任挨拶」を受領した。
- (13) 日本医療機器産業連合会からの冊子「医機連ニュースNo. 78」を受領した。
- (14) 日本化学療法学会からの通信文「新理事新監事就任の挨拶」を受領した。

- (15) 日本小児科医会からの通信文「会長退任と就任挨拶状」を受領した。
- (16) 厚生労働省医薬食品局からの冊子「献血血液の研究開発等での使用に関する指針」を受領した。
- (17) 外科関連学会協議会からの通信文「第 1 回外科関連学会協議会議事録(案)および外科医の労働環境改善などのアンケート諾否」につき、本会からはアンケート調査に参加する（日本外科学会の会員の 10%を対象とした調査に参加する）旨、回答したことが報告された。
- (18) 戦争と医の倫理の検証を進める会からのチラシ「国際シンポジウム開催の案内」を受領した。
- (19) 日本医学会からのリーフレット「セクシャルハラスメントが原因で精神障害を発病した場合は労災保険の対象になります」
- (20) 日本臨床検査医学会からの寄贈本「東日本大震災 臨床検査支援活動記録と提言」を受領した。
- (21) 外科関連専門医制度委員会からの通信文「第 50 回総会の議事録(案)および専門医の在り方に関する検討会中間まとめ(案)」につき、田口理事長より資料に基づき、説明があり、了承された。
- (22) 日本医学会からのDVD第 13 回公開フォーラム「認知症の早期診断・治療とケア」を受領した。
- (23) 日本医師会からの寄贈本「JMJA Vol. 55-3」を受領した。
- (24) 日本医師会からの通信文「医学賞・医学研究奨励賞受賞者決定報告」を受領した。
- (25) 小児がん拠点病院の指定要件について、田口理事長より資料に基づき、当該病院は本会の認定施設であるという条件が認められたことが報告され、了承された。
- (26) 日本小児栄養消化器肝臓学会の認定医制度設立について、田口理事長より資料に基づき、現状案が報告された。
- (27) 看護師の特定能力の認証に関する医行為分類案と教育内容等基準案に関する意見募集について、仁尾副理事長より資料に基づき説明があり、審議の結果、本会からの意見を仁尾副理事長が取りまとめた上で、提出することとなった。
- (28) 日本周産期・新生児医学会からの「早期母子接触の留意点」の共同提言依頼について、田口理事長より資料に基づき説明があり、審議の結果、本会としては共同提言に賛同することが承認された。
- (29) 日本がん治療認定機構 2012 年度関連学会連絡委員会について、仁尾副理事長より、資料に基づき、報告があり、了承された。

4 審議事項

1) 第50回学術集会について（岩中会長）

岩中会長より、資料を基に、プログラム内容の説明があり、承認された。

	午前	午後	夜
5月 29 日	理事会	評議員会 記念式典 WOFAPS 理事会など	記念祝賀会
5月 30 日	記念座談会 シンポジウムなど	理事長講演 会長講演 招待講演	

		一般演題 (ポスター含む)	
5月31日	教育講演 シンポジウムなど International Session 一般演題	特別講演 教育講演 シンポジウムなど International Session 一般演題 (ポスター含む) 倫理セミナー	会員懇親会
6月1日	教育講演 シンポジウムなど International Session 一般演題	特別講演 シンポジウムなど 一般演題 (ポスター含む) 国際協力セッション	内視鏡セミナー 卒後教育セミナー
6月2日	卒後教育セミナー	卒後教育セミナー	

PALSは前週末に東機質にて開催予定

6月2日の卒後教育セミナーはNSビルにて開催予定

市民公開講座は開催しない

会長招宴は120～130名程度の規模 5月30日夜

招待者：名誉会員・特別会員、理事・監事、会長経験者、海外招待者

2) 第51回学術集会について (濱田副会長)

濱田副会長より、資料を基に、日程・会場および運営の説明があり、了承された。

学術集会	平成26年5月8日(木)から10日(土)
理事会・評議員会など	平成26年5月7日(水)
卒後教育セミナー	平成26年5月10日(土)、11日(日)
市民公開講座	平成26年5月10日(土)
会場	大阪国際会議場 (大阪市北区中之島)
運営	学会支援機構

3) 第28回秋季シンポジウムについて (田口理事長)

田口理事長より、資料に基づき、準備状況が報告され、了承された。

4) 庶務委員会 (小室庶務委員長)

小室庶務委員長より会員動向について、以下の報告があり、承認された。

平成24年8月末現在の会員数は、評議員を除く正会員1,929名(うち海外4名)、評議員289名、名誉会員55名(うち海外9名)、特別会員62名(うち海外1名)の合計2,335名である。

また、会員資格復活保留となっていた件につき、審議の結果、会員復活とすること、および第21回評議員選挙について要件を充たしている場合は選挙権を与えることが承

認された。

5) 財務会計委員会（吉澤財務会計委員長）

吉澤委員長より以下の通り報告され、了承された。

- ・ 秋季シンポジウム補助金および会期中の日本小児外科学会関連の会議会場費について、堀本会長へ連絡をした。
- ・ 機関誌電子化に関し、PDF-VEIWER のサンプルが提示され、実際に PDF-viewer を導入するかどうかは J-Stage の利用申請許可のタイミングとその導入スケジュールによるため、継続審議事項とした。

6) 各種委員会報告および審議事項

(1) 機関誌委員会報告

北川担当理事より、資料に基づき、以下の通り報告された。

- ・ 50 周年記念誌について歴代理事長および会長の写真と簡潔な紹介文について、どのように依頼していくかにつき、委員会にて継続審議中である。
- ・ 利益相反について、運用を開始したが、現在のところトラブルは起きてない。

(2) 国際・広報委員会

田口理事長より資料に基づき、以下の通り報告され、承認された。

- ・ 第 50 回日本小児外科学会総会で途上国支援をテーマとした国際セッションを企画したい旨、提案され、岩中会長よりセッション枠を準備いただけることとなったため、セッション内容については国際・広報委員会にて継続審議事項とした。
- ・ 学会ホームページについて、レイアウトを全面的に変更する具体的な案をもとに費用の相見積を確認していくことが提案され、承認された。

(3) 保険診療委員会

窪田担当理事より以下の通り報告があり、承認された。

- ・ 平成 26 年度診療報酬改定に向けて（外保連、日本外科学会）
外保連実務委員会において、平成 26 年度診療報酬改定に向けた要望項目アンケートの締切りが平成 25 年 1 月 11 日に決定したことに伴い、この期限までに、新設・改正要望が行えるよう、医療材料調査や委員会開催等を調整中である。
なお、日本外科学会保険診療委員会では、外保連の上記提出期限を考慮し、臓器別専門小委員会を 11 月下旬までに開催し、11 月 30 日までに要望項目名を日本外科学会に提出。12 月中に総括委員会及び保険診療委員会を開催し、平成 25 年 4 月下旬までに 26 年度用要望書を外科学会事務局に提出することとなった。
平成 24 年度診療報酬改定において、すでに開腹等手術が保険適用されており、外保連手術試案第 8 版で C 難度及び D 難度の腹腔鏡手術が一括採用されたが、今回も腹腔鏡手術の一括採用を要望する場合は、外保連試案に収載するだけでなく、要望書（腹腔鏡手術が複数ある場合は一括採用要望としてアンケートは 1 項目とする）

の提出が必要であることが確認された。

又、すでに先進医療で実施している技術に関しては、保険収載されるか別ルートで検討されるため要望しないこととした。

- ・手術時間などの実態調査について（外保連、日本外科学会）

外保連手術試案の精緻化に向けて、日本外科学会指定・関連施設と外保連加盟学会専門施設を対象に実態調査が行われる。

調査対象：手術室で施行される、すべての診療科の「保険請求している手術」（重複手術を除いた手術）

調査項目：手術名（Kコード）、医師数、看護師数、技師数、麻酔時間、手術時間

調査期間：平成 24 年 10 月～11 月（提出期限 12 月 14 日）

データ分析およびデータ反映：12 月にデータ分析を行い、平成 25 年 3 月まで外保連手術委員会でデータ反映の議論をおこない、外保連手術試案を改定する。

- ・外保連手術試案の改定作業（外保連）

外保連手術委員会コーディングワーキンググループでは、外保連手術試案（第 8 版）の術式掲示法（並び順や小見出しの追加、術式名の統一等）見直作業中である。

外保連手術委員会医療材料・医療機器ワーキンググループでは、

- ①外保連試案のオンライン化が 2013 年 3 月下旬に向けて進められている。
- ②医療材料の実態調査について、50 症例程度が目安であるが、手術頻度の少ない手術は、年間症例の 10 分の 1 を目安としてケースバイケースで検討する。
- ③各試案手術の医療材料費は「実態調査」「準拠」「類推」により記載されてきたが、試案の信頼性に関わるため「類推」を廃止とした。「準拠」はこれまで通り認められたが、準拠元の手術は実態調査することが確認された。
- ④医療材料の実態調査について、古いデータは信頼性が得にくく、第 8 版作成時の調査および現時点の費用実態を用いることが確認された。しかし手術頻度の少ない手術に関しては、オペラマスター等実際のデータがある場合に限り 2012 年 1 月 1 日に遡って使用して良いこととなった。

- ・日本小児期外科系関連学会協議会報告（平成 24 年 5 月 31 日開催）

- ①平成 25 年度早々に平成 26 年度診療報酬改定要望書をまとめ、例年通り要望書を提出する予定である。
- ②今後の要望は検査・処置の分野に広げたいが、検査・処置は小児科領域と重なる部分が多く、小児科との連携がこれまで以上に大切であること、外保連試案に沿った要望をすることが確認された。
- ③深麻酔に関する外保連麻酔試案の考え方（12 歳以下を対象、知的障害者に関しては知的障害の程度を明記、検査中の記録を医師が記録すること等）が示された。処置・検査の鎮静についての加算に関しては、対象を限定して申請するほうが、認めてもらえる可能性が高いとの指摘があり、今後、深麻酔に限定した要望を提出することを確認した。

- ・内保連小児関連委員会報告（平成 24 年 7 月 26 日開催）

小児の鎮静に関する小委員会報告（平成 24 年 8 月 29 日開催）

①内保連小児関連委員会にはオブザーバーとして出席。平成 26 年度診療報酬改定に向けて、処置・検査についての要望等で小児科、小児を扱う外科領域の学会と連携していくことが確認された。その際の深麻酔については小児の鎮静に関する小委員会を設け、検討していくこととなった。

②現在、利用できる小児の鎮静（麻酔）について確認された。

L001-2 1 静脈麻酔（短時間のもの）120 点

L001-2 2 静脈麻酔（十分な体制で行われる長時間のもの）600 点

がすでにあり、静脈麻酔とは、静脈注射麻酔剤を用いた全身麻酔であり、「L001-2 1」は静脈麻酔の実施下で、検査、画像診断、処置または手術が行われた場合で、麻酔実施時間が 10 分未満に算定、「L001-2 2」は麻酔実施時間が 10 分以上で、十分な監視下のもとに行い、麻酔記録を残せば算定可能。

③平成 26 年度改定に向けては、小児鎮静に対する一律の加算要望でなく、対象を腎生検（日本小児腎臓学会）、心カテーテル検査（日本小児循環器学会）、内視鏡検査（日本栄養消化器肝臓学会）に限定し、小児麻酔学会の意見や外保連麻酔試案を参考に、共同して要望していくことが提案された。

・外科医の労働環境に関するアンケートについて（日本外科学会）

平成 22 年度、24 年度と診療報酬改定で外科系にプラスになった成果がわかるデータを発信しないと平成 26 年度改定のプラスが困難であるため、外科医労働環境改善委員会でアンケート調査を実施することになった。

・診断群分類の検討に関するワーキンググループ（DPC 検討 WG）報告

これまでの「MDC 作業班長会議」は「診断群分類の検討に関するワーキンググループ（DPC 検討 WG）」と名称が変更された。

平成 26 年度 DPC 改定に向けて、平成 24 年秋～冬頃に調査票を作業班ごとに集約、平成 25 年春に事務局が提示した見直し案について班員から意見を聴取し修正案を作成、平成 25 年夏頃に各作業班で決定した見直し案を DPC 検討 WG で検討し、それを最終案として DPC 評価分科会報告するというスケジュールが確認された。

（4）教育委員会

松藤担当理事より資料に基づき、以下の報告、提案があり、承認された。

・内視鏡手術セミナー規定（案）については、前回理事会で承認された方針を基に規定（案）を作成した。

・第 29 回卒後教育セミナー（案）の内容は凡そ問題ないが、司会については各委員が分担するようにして、討論等も若い人が前面に出るような構成を再検討することとなった。

・困った時の相談掲示板につき、実際の運用画面（案）、運用方法および注意事項が提示され、承認された。

(5) 悪性腫瘍委員会報告

前田担当理事より以下の通り報告され、承認された。

- ・2011年次登録調査は10月15日を回収目標として現在集計中である。
- ・追跡調査（2001-2005登録症例）については、地区センター毎に回収、入力を行い、2012年8月末までに委員長宛に送付し、その後各追跡担当者に9月中旬までに送付して解析を開始することとした。一部の地区での回収の遅れがめだつが、それ以外は比較的良好に集計されており現在委員長のもとの集計業務が進行中。追跡調査データの解析内容に関しては、例年通り、2013年3月末までに最終型にすることを目指している。

(6) 学術・先進医療検討委員会報告

濱田担当理事より以下の通り報告され、承認された。

- ・現在第49回演題集を入力中である。
- ・第49回の優秀ビデオ10作品中9作品を9月11日に公開し、第47回、第48回と合わせて現在29のビデオを公開中。
- ・会員対象のアンケート調査依頼の審査および認可について
 - 1、三重大学消化管・小児外科内田恵一先生から「手術部位感染予防策に関するアンケート調査報告」のホームページ掲載依頼があり、審議の結果、6月1日付けで承認した。一部修正され追加審議の後、7月12日付けで承認しホームページに掲載した。
 - 2、九州大学小児外科 田口智章先生から「がん対策推進基本計画とがん診療連携拠点病院の小児がん診療体制への適応に関する研究」に関する調査結果報告書のホームページ掲載依頼があり、2回の審議の後8月23日付けで承認しホームページに掲載した。
 - 3、九州大学小児外科 田口智章先生から「Hirschsprung 病類縁疾患の現状調査と診断基準に関するガイドライン作成」に関する調査結果報告書のホームページ掲載依頼があり、一部修正の後9月12日付けで承認しホームページに掲載依頼をした。

(7) 倫理安全管理委員会報告

菑澤担当理事より、以下の通り報告され、承認された。

- ・「役員等の利益相反自己申告書」を理事、監事、委員会委員長、会長、副会長、機関誌委員会委員、学術・先進医療検討委員会委員、倫理・安全管理委員会委員、保険診療委員会委員、利益相反委員会委員に送付し全員から返答があった。今後は利益相反委員会を開催し自己申告書をチェックし、学会事務局にて施錠管理する。
- ・「小児外科勤務医の勤務状況に関するアンケート調査」の解析が終了し、「委員会報告」として日本小児外科学会雑誌10月号に掲載されることになった。

(8) 小児救急検討委員会報告

松藤担当理事より、以下の通り報告、提案され、承認された。

- ・東日本大震災に対する日本小児外科学会の活動報告まとめを学会ホームページへ掲載する旨、提案され承認された。
- ・第1回小児外科医のための小児救急セミナー（2012年5月13日）の開催報告につき、学会ホームページへ掲載する旨、提案され承認された。
- ・次回の小児外科医のための小児救急セミナーについては、第28回秋季シンポジウム時に開催するプログラムが提案され、内容および学会ホームページへ掲載していくことも含め承認された。
- ・2013年度PALS講習会の開催案内につき、プログラムが提案され、内容および学会ホームページへ掲載していくことも含め承認された。

(9) データベース委員会

前田担当理事より、以下の通り報告・提案され、承認された。

- ・2013年度NCD登録手術術式に関して追加修正削除する術式を検討し、新たに追加するよう術式（肥厚性幽門狭窄症手術/腹壁形成術（腹壁破裂、臍帯ヘルニア）/漏斗胸バー抜去術/食道バンディング/鎖肛手術（PSARP）/中心静脈カテーテル抜去術）をNCD事務局へ連絡した。
- ・東京大学岩中先生から小児における内視鏡手術の実態調査を兼ねた、NCDを利用した多施設共同研究の実施について（小児外科領域のNCDデータベースを利活用について）の審査依頼があり、データベース委員会にて審査した結果を理事会（持ち回り審議）に上申し、全員一致で承認された。依頼者へは審査結果を8月15日付けにて回答した。外保連試案第8版との整合性を検証したうえで使う旨の説明があった。

(10) ワークライフバランス検討委員会

窪田担当理事より、以下の通り報告・提案され、承認された。

- ・ワークライフバランスの実態、各施設でのキャリア継続支援の現状を把握するために日本小児外科学会会員を対象に行うアンケート調査につき、当該処理を学会支援機構へ依頼（費用見積8万円）することが提案され、承認された。

7) 総合調整委員会報告（仁尾委員長）

仁尾委員長より、以下の通り報告され、承認された。

- ・「教育関連施設に専門医を置く」方針であるが、実施時期を含めて専門医制度委員会で最終案を作成してもらい、次回の総合調整委員会で検討することとなった
- ・日本周産期・新生児医学会専門医制度につき、資料に基づいて現状報告があった。日本小児外科学会としては小児外科医が当該制度を利用できるように規則改正（一定の条件で周産期・新生児認定外科医として認定する）を要望していくことが提案され、承認された。
- ・学術集会の在り方について、プログラム・会計など学術集会の運営を会長主導から

学会主導に変えていくことに対しての意見交換が行われ、継続審議事項となった。

8) 専門医制度認定委員会報告（前田施設認定委員会委員長）

前田施設認定委員会委員長より、以下の通り報告・提案され、承認された。

- ・小児外科専門医認定および施設認定について、NCDを利用していく上で、本年の専門医制度合宿委員会および再審査委員会にてNCD登録データと年次報告書との検証作業をした結果が資料に基づいて報告された。2012年以降の小児外科専門医認定および施設認定のデータとしてNCDを利用するかどうか審議の結果、承認された。

なお、2012年以降は小児外科専門医認定および施設認定のデータとしてNCDを利用する通知を各認定施設代表者へ通達することとなった。

- ・小児外科専門医更新のタイムスケジュールについては、今後外科専門医の更新スケジュールに間に合うようにあわせていくことが必要である旨、提案され、承認された。

9) 次回定例理事会の日程の確認について

次回理事会は平成24年10月31日（水）10：00～15：00第28回秋季シンポジウム会場静岡コンベンションアーツセンターグランシップにて開催することが確認された。

理事長 _____

理事 _____

理事 _____